

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29年 2月20日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4679103730
法人名	有限会社 友星メディカル
事業所名	グループホーム 笹貫の家
所在地	鹿児島県鹿児島市小松原一丁目1番2号 (電話)099-268-2627
自己評価作成日	平成28年10月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成28年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念の「笑顔の絶えない」「あなたが今できることを大切に」「いつまでもおいしく食事ができて、元気で過ごせるように」を大切に、その方にとって、ここが家であると思っただけのような、またその方にとって私達職員も家族の一人として、お一人おひとりに寄り添うケアを大切にしています。定期的なまた季節ごとに室内や外出の機会を多く取り入れ、ご本人はもちろん、ご家族の方々も一緒に喜んでいただけるイベント内容を実施しています。毎月発行の「笹貫だより」にホームでの取り組みを事細かに掲載し、遠方のご家族・知人の方々にもホームでのご様子を知っていただけるよう努めています。お困り事やご要望、ご相談など、管理者をはじめ、職員に対して気兼ねなく話していただけるように、日々全員が心がけ努めています。町内会に加入しており、町内会活動にも積極的に参加させていただき、町内会夏祭りや校区運動会など地域主催の催し事に利用者様が参加されることで、地域交流を深められており、毎年の楽しみイベントとなっています。口腔ケアにも力を入れており、協力歯科医院による口腔内管理や指導をいただきながら、安心した良き口腔状態が維持できるよう努めています。食事に関して「利用者様にとって何よりも一番の楽しみはお食事」との利用者様の想いを大切に、野菜や季節の食材を中心とした栄養士が考案した食事献立となっており、時には利用者様からのご要望あったお食事メニューを提供できるよう努めており、毎日のお食事を楽しくおいしく召し上がっていただけるよう日々取り組んでいます。周囲の環境としては、最寄りに市電やバス停があり、車でもお越しいただきやすく、交通等にとっても便利なグループホームです。また近隣に様々なお店や銀行、郵便局があり、利用者様にとっての地域資源が豊富なことも魅力のグループホームです。職員全員が「その方にとって、ゆっくりを大切に。安心して過ごせる」グループホームを築けるよう、日々取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<理念について>
・本人本位の生活、地域との関係性、笑顔の絶えない安らぎのホーム、美味しい食事等の理念を毎朝唱和し、意識付けを図っている。また、理念のほかに職員全員の意見を反映させた年度目標も掲げており、理念と併せて達成状況を確認しながら取り組んでいる。
<地域とのつながりについて>
・自治会に加入し地域の夏祭りや夜間防犯パトロールに参加するほか、自主活動として月1回地域清掃活動を行っている。
・地域交流や認知ケアの拠点となるよう、近隣の別法人のケアハウスと連携して「小松原1丁目交流会」を企画し開催している。交流会では歌や踊り等演芸を楽しみながら、地域住民との情報交換の場として活用し、積極的に地域との交流を図っている。
<食事について>
・献立は栄養士の資格を持つ職員が中心となって作成し、調理の下ごしらえ等利用者と職員が協力し合って作り、職員も同じメニューの食事を会話を楽しみながら食べている。
・理念に食事についても掲げてあり、おせち料理をはじめ、行事食やおやつ等手作りにこだわった食事を提供し、時には外食やお弁当を持参しての外出の機会を持ち、食べることの楽しみを大切に支援を行っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	管理者と各職員は理念の意義の確認をし、理念を共有して日々のケアの実践につなげている。また毎朝の朝礼時に理念唱和を行うことで日々理念の再確認をしている。	4項目からなる理念は、利用者中心に考えられ、具体的で分かりやすいものとなっており、毎日唱和することで意識付けを図り、年度目標も作成して日々の実践に取り組んでいる。毎年末に理念と年度目標の振り返りを行い、次年度へつなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月1回、職員と利用者でホーム周辺の小松原1丁目と宇宿3丁目内を地域清掃活動という自主清掃活動を行っている。また毎月5日に夜間防犯パトロール地域活動に職員が参加し、所属町内会の方々とコミュニケーションを図っている。また町内内が主催する「夏祭り」への参加し、当事業所職員と近隣の介護保険施設職員の方と共同で踊りを毎年披露している。校区運動会にも見学参加させていただき、日常的に交流できている。	自治会に加入し地域の夏祭りや夜間防犯パトロールに参加するほか、自主活動として月1回、利用者と共に地域清掃活動を行っている。また、敬老会の時期に合わせて別法人のケアハウスと合同で「小松原1丁目交流会」を企画開催して、地域の方々と歌や踊り等の演芸を楽しむなど、交流の機会を増やし地域とのつながりを深める取り組みを行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議に町内会会長や民生委員の方々に参加いただき、認知症と認知症の人の理解やその支援方法を発信している。また、9月に他介護保険施設と共同で地域交流会を開催し、多くの地域住民の方にも参加いただき、交流会を通して認知症や認知症の人の理解を発信でき生かすことができている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の運営状況やサービスの実際や評価への取り組み状況等の報告や話し合いを行い、出席される方々よりご意見をいただき、当事業所のサービス向上に活かせるよう努めている。	会議は定期的に行われ、家族や職員、行政職員、自治会長や民生委員などの地域住民も参加して事業所の取り組みや活動内容を報告している。災害対策としてオール電化に変える案や地域住民を連絡網に入れてはどうかなど、サービス向上に向けた積極的な意見交換がなされている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	日頃から福祉事務所の担当者を中心に、介護保険課をはじめ、市町村担当者とこまめに連携を取り協力関係を築くように取り組んでいる。	行政職員とはケアに困った時や介護認定申請の際に電話や訪問するなどして連携を図っており、福祉事務所とも医療券の発行など適宜訪問し面談している。また、行政主催の研修会にも参加するなど顔を合わせる機会は多く、介護相談員からの助言等も得られている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月の職員ミーティング中に身体拘束に関する報告と確認の時間を設け、周知している。また身体拘束について年2回の内部研修を行い、身体拘束について正しく理解できるよう努めており、身体拘束しないケアに取り組んでいる。身体拘束に関する外部研修にも機会があれば参加している。	虐待に関する内部研修を年2回実施し、本年度は行政主催の研修にも参加する予定である。また、毎月の職員会議で身体拘束に関する確認を行うほか、日頃から地域住民に事業所の特性を伝えて万一の際の見守りの協力をお願いしており、利用者の自由な暮らしを支援するための連携を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の職員ミーティング中に虐待に関する事例報告や虐待防止啓発の機会を設け協議している。また虐待について年2回の内部研修を行い、日々のケアの実践において、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、虐待防止に管理者を中心に全職員で努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	事業所内の内部研修で、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を設けている。また機会があれば外部研修にも参加研鑽できるように努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居における契約の締結と解約または改定等の際は、利用者や利用者家族の不安や疑問点を尋ね、懇切丁寧を根本に十分な説明を行い、理解・納得を図られている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や外部評価の際に機会を設けている。また年に2回の家族会議や各階の入口に「ご意見箱」を設置し投函いただけるようしている。また意見要望等は第三者委員を設置し、窓口となつていただいている。面会時やお電話で随時ご意見やご要望を受入れ、運営上反映させている。	入居時に本人、家族から聞き取りした情報や前事業所からの情報も参考に、入居後も年2回の家族会や来所時等にこまめに要望を尋ねることで意見を言いやすい関係に努めている。また、ヒヤリハットの報告や毎月のお便りを送付することで普段の生活の様子を伝え、意見や感想をもらっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の管理者会議、毎月の職員会議等で主に職員の意見や提案等を聞く機会を設けている。また年末に「今年の反省と来年の目標」を職員各自に依頼し、項目の中に「管理者への意見」欄を設け、反映できるよう努めている。また随時職員との面談機会を設け意見や提案を反映させている。	職員と管理者とは日頃から意見を言いやすい関係にあり、その都度意見交換がなされるほか、申し送り時や職員会議、年末の振り返りの場でも話し合われている。また、来年の目標シートに管理者への要望欄を設け、個別の意見を汲み取るよう工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>毎月の管理者会議で管理者は代表者に職員状況等や現状を報告相談することで代表者は職場環境や実績等の把握をしている。給与水準に至っては今のところ変化がないが、管理者が代表者に働きかけている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は随時、法人主催の研修案内や外部の研修案内を発信している。管理者は職員の力量や現在の状況に応じた研修案内を行い、スキルアップの機会を設けている。また介護福祉士や介護支援専門員の受験など、受験希望している職員には管理者より言葉かけし、受験してもらっている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は毎月の管理者会議で、他の事業所管理者との交流を深めている。またここ2年間に、9月に他法人のケアハウスと共同で交流会を開催し、お互いの職員間や所属長同士の交流を深めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>管理者をはじめ、各職員は本人の困り事や不安要望等に傾聴し、当グループホームで安心して暮らせるよう、寄り添いまた、早期に馴染みの関係性作りに努めている。他の利用者様とも本人が安心できる関係になれるよう、管理者や職員は心がけている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>管理者兼計画作成担当者は、家族の困り事や暮らす上での不安や要望に十分に傾聴し、本人の暮らしや家族の思いに応えられるよう努めている。また本人に関するアセスメントを行い、個人情報に留意しながら職員が家族のニーズを情報共有できるよう努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>管理者兼計画作成担当者はサービス利用開始段階で、「その時」の必要とする支援を見極め、本人や家族と対話しながら他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員は本人の思いに寄り添い受け止め、なじみの関係性を理解し家族のような関係作りを心がけることで、本人の暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族支援も含めた認知症介護であることを理解し、家族の想いに寄り添いながら本人と家族の関係や絆を大切にしながら、本人の暮らしを支えられる関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人にとって馴染みのある方々からの手紙や電話、面会で関係の継続を支援している。お墓参りや行きつけの理美容店、お店などの希望があった際は、ご家族の協力をいただきながら支援できている。	これまでの馴染みの関係をアセスメントシートに落とし込み、家族や友人、知人らとの電話や手紙の取り次ぎ、訪問を支援している。職員が同行しての外出支援や、お墓参り等場所によっては家族の協力をもらいながら、馴染みの人や場所との関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援	職員は各利用者同士の関係性や相性等を把握共有し、その時に応じた席替え等を行うことで、孤立せずに良好な関わり合い、支え合えるような支援に努められている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後、退居後の利用者や利用者家族からの連絡相談や訪問は歓迎し、近況や退居後の状況についての相談事等に応じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望や意向の把握に努め、定期的また臨時でのカンファレンスを開催し、本人の今の思いや希望意向等の変化の把握に努めている。なるべく本人本位に検討できるよう心がけている。	入居時に本人や家族から聞き取った思いや意向をアセスメントシートに落とし込み、入居後も日々の生活の中で感じたことや表情、仕草等からも汲み取るよう努めている。把握した情報は申し送り時や職員会議で話し合い共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの今までの馴染みだった暮らし方や生活環境等の生活歴に努め、本人やご家族から情報収集し職員間で情報共有できるよう努めている。またこれまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の朝夕の申し送りや、その日の状況等で、一人ひとりの過ごし方や心身状況を把握し、有する力等の現状把握に努めている。また毎月や臨時のカンファレンスにて、一人ひとりの現状の把握を深め、職員間での情報共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者兼計画作成担当者は本人の課題の抽出とケアのあり方について、本人や家族他関係者と話し合い、それぞれの意見反映に努め、現状に即した介護計画を作成できるように努めている。	職員による日頃の様子観察に加え担当者、副担当者らが把握した情報を参考にしながら毎月のカンファレンスで確認し合いプランに反映させている。また、受診時に把握した医師の意見や訪問看護ステーションからも意見をもらうほか、状態に変化がみられた場合はその都度計画を見直すなど現状に即した計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子やケアの実践は個別の介護記録に記入し、気づきや工夫は申し送りノートの回覧確認や口頭、またカンファレンスにて情報共有し、その後の実践につなげられている。また介護計画の見直し作成にも活かされている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>利用者の臨時の他科受診で、交通手段の無い家族の病院送迎や、利用者の買い物や外出等での付き添いをはじめとする、その時々生まれるニーズに対応して、柔軟かつ臨機応変に取り組められるよう努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>町内会の活動や町内会主催の夏祭り、運動会見学など、参加し関わりをもつことで、地域の一員の自覚をもっていただき、近隣のお店等での買い物ができることで、暮らしを楽しむことができるよう努めている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>受診は本人や家族の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築き、適切な医療を受けられるように支援している。時により本人の心身状況の情報提供書を作成し、そのかかりつけ医に返書をいただくことで、事業所との関係を築けている。</p>	<p>入居後も本人、家族の希望する病院を受診できるよう家族と職員が協力し合い支援している。家族が受診に同行する場合は事業所が準備した「心身状況報告書」を医師に渡してもらい、受診後は「診療情報提供書」に所見を書いていただき、医療機関との情報の共有・連携を図っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>介護職員は利用者の日々の心身状況を把握し、職場内の看護職員や、往診の看護師に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう努め支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者の入院が発生した際は、その利用者が安心して治療を受けられるよう病院関係者や家族に相談し、病院関係者との情報交換に努め、早期退院につなげられホームへの帰居につなげられるよう病院関係者との関係作りに努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>現在、看取り等を当事業所では行わない旨を示しているため、重度化や終末期に向けた方針の書類を作成し、本人や家族と早期の段階での話し合いと納得同意を得ている。また重度化や終末期のあり方については、事業所としてできることを十分に説明した上で方針を共有して、支援できるよう取り組んでいる。</p>	<p>「重度化や終末期における介護指針」を入居時に説明し同意を得ている。入居後も状態に変化がみられた場合に再度説明している。現段階では看取り支援は行っていないが、日々接する中で看取りの重要性を感じているため、内部研修を実施したり、職員と意見交換する場を設けるなど、今後の支援にむけて前向きに取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>年2回の消防署職員立会いによる避難訓練時に、応急手当や初期対応の訓練を指導いただき、職員各自が急変や事故発生時の備えに対して、実践力を身につけられるよう取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災や地震、水害等の非常災害時を想定して、年2回の避難訓練を実施して消防署職員に指導をいただいている。また利用者が昼夜問わずに安全に避難できるよう全職員はスキルを身につけられるよう努め、運営推進会議で地域との協力体制が築けるよう地域代表者等に助言をいただいている。</p>	<p>町内会長や民生委員等の参加も得られ、火災や地震の訓練を夜間想定も含め実施している。災害時の避難経路の確認や近隣の自動車工場を避難場所にさせてもらうなど協力体制を整えている。飲料水や食料、懐中電灯等の備蓄や備品については若干少ないため、今後増量等の対応をしたいと考えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月のミーティングやカンファレンスにて、言葉かけは、心の発露であること、利用者は人生の大先輩であること、人格者であることを職員に伝え、本人にとって誇りやプライバシーを損ねない、また配慮ある言葉かけと関わりがもてるよう周知徹底している。	権利擁護や接遇に関する内部研修を実施し、人格の尊重やプライバシーを損ねない支援に努めている。さり気なくトイレに誘導したり、使わない時はポータブルトイレにカバーをかけるなど配慮している。また、来訪者への守秘義務の説明も徹底して行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の暮らしの中で、本人が心おきなく思いや希望を伝えられ、また自己決定できるような関わり方や働きかけができるよう、職員は心がけ取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいかを日々把握し支援できるように心がけ努めている。	その時の状況で、職員側の都合を優先している場合もあるが、できるだけ一人ひとりのペースを大切に、その日やその時をどのように過ごしたいかを日々把握し支援できるように心がけ努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	好みの身だしなみやおしゃれのニーズを把握し、本人本位におしゃれや身だしなみが整えられるようにしている。また家族にも相談し協力をいただくことで、その人らしい、その人の好む身だしなみやおしゃれを支援できている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当日の献立を事前に伝え、一緒に野菜の下ごしらえ等の準備を行い、好みや力を活かしながら食事に関する一連の作業に取り組めるよう努めている。	栄養士の資格を持つ職員が1週間分の献立を立て、調理の下ごしらえや準備を利用者とともに行い、職員も同じものを会話を楽しみながら食べている。理念に食事に関する文言を盛り込むなど食事の大切さを職員と利用者が日々感じられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分摂取量を確保できるよう把握と情報共有し、一人ひとりの好む食事習慣や状態や力に応じた支援ができるよう心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを随時言葉かけし、一人ひとりの口腔状態を把握し本人の力に応じた口腔ケアを実践できている。また協力歯科医院に定期的に通院または往診してもらい、義歯調整をはじめ口腔内の管理をしていただいている。食事前は誤嚥予防の為に、嚥下体操を必ず行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを「水分摂取・排泄確認表」で把握し、失敗なくすっきりできるよう努め、随時トイレですっきりと排泄できるよう配慮している。その人の状況によっては、オムツから綿パンツへの移行も実施し、その際はご家族にも相談して取り組んでいる。	ポータブルトイレを使用する利用者も日中はトイレでの排泄に努めている。排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握することができ、尿意のサインも見落とさずトイレ誘導につなげることができている。また、おむつを外す努力についても工夫しながら取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘の原因や与える影響を理解している。毎日の献立内容には栄養士資格者が、繊維物を多く含む食材を組み入れ、調理したお食事を提供している。毎日ヨーグルトをはじめ乳製品を摂っていただき、身体を動かすレク活動への参加を促すことで、便秘予防に努められている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日間隔を設けているが、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、ゆっくりと入浴を楽しめるように、また個々の状況に応じた入浴支援に努めている。入浴が楽しめる工夫として、入浴剤の定期的な変化を施すことで、楽しめる入浴支援となっている。	入浴は週3日程度としているが、希望があれば足浴も含め入浴することが可能である。また、入浴が楽しみとなるよう、ゆず湯や入浴剤を利用することもある。入浴を拒む方への対応については、体調不良の場合もあるため、気を配り対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣をを把握した上で休息や安心して気持ち良く眠れるよう支援している。毎日夜に、ホットミルクや好みの飲み物をお出しして安眠効果を得られるよう工夫もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診ファイルで管理し、職員が薬の目的や副作用・用法・用量等について正しく理解している。服薬時は、手の平に渡し、きちんと飲み込むまで確認している。一人ひとりを良く観察し、変更のあった際はもちろん、変化のあるときはすぐに対応できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意とされることや、今までの生活歴を把握し、家事参加など役割を担っていただいている。また毎日ではないが、楽しめるレクリエーションに参加いただいたり、春や秋の天気の良い時は、近隣の公園まで散歩したり、1ヶ月に1度の頻度で外出レク活動を企画し楽しんでいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	その日その時の状況によるが、希望があれば、戸外への外出での買い物等柔軟支援できるよう努めている。普段行けないような場所も、ご家族様の協力を得て、墓参りや知人や親戚宅等、また行きつけだった理美容店など外出できるよう支援に取り組んでいる。	日々の買い物や散歩のほか、初詣や季節毎の花見、地区の運動会や自治会交流会等の外出を年間行事計画に組み入れ、時には法人のバスやリフト車を借りて出かけている。行事には家族も同行するなど協力が得られている。また、最近定期的に利用者と職員が地域のゴミ拾いを行っており、地域の方と挨拶しあう機会となって事業所の存在が認められるようになってきた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は認知症になってもお金やお金を使うことの大切さを理解周知しており、一人ひとりの希望に応じ、お金を使えたり、家族に理解と協力を得て、お金を使えるよう支援している。通常は預かり金を本人、家族から預かり、金庫で管理と毎日出納帳管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	日常的に利用者にとって大切な人からの電話のやり取りをしたり、手紙や年賀状のやり取りができるよう支援している。中には居室に固定電話を設置している方もおられる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースでは、利用者にとって不快感をなるべく与えないよう環境整備している。トイレ他毎日清潔や衛生を保つため念入りに掃除手入れしている。また季節ごとに月々のカレンダーの色塗りに取り組んでいたり、季節ごとの共有スペース壁面の壁面飾りを利用者と共に作成し、利用者からも意見を頂戴しながら季節を感じられるような工夫や取り組みを日常的に行っている。	玄関、フロアともに十分な採光が得られ、毎日の換気と室温調整により快適に過ごせるよう工夫している。四季を感じさせる利用者の作品や行事毎の写真を掲示してあり、来訪者を和ませている。掃除は毎日利用者と職員が共に行っており、感染症対策として消毒液による手すりの拭き取り等を徹底している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有スペースでは、一人になれたり気の合う利用者同士の交流の為に、ソファを設置して、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人・家族と相談して昔の写真や使い慣れた馴染みある家具等や本人にとって好みの物を持ち込んでいただき、居心地欲過ごせるよう共に工夫して取り組んでいる。</p>	<p>エアコンやベッド、タンス、洗面台が備え付けられ、ベッドやタンスは好みや動線を考えて、自由に配置して利用している。また、テレビや仏壇、位牌、写真等自宅からも馴染みの品を持ち込むことで個性豊かな部屋造りがなされている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとりの居室前には、その方の氏名を記した表札を設置している。各トイレには「お便所」の表札を。浴室には「湯」の暖簾を取り付けている。また「できること」や「わかること」が活かせるよう、建物内部の環境整備に努めている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りで「理念」を唱和し、利用者が主体的に生活出来る様に、地域・家族と共に支えていくという認識を高め、利用者が安心して穏やかに生活出来る様に、再認識し職員同士協力し合っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会主催のイベント(夏祭り、運動会、敬老会等)には、出来るだけ参加している。又、月1回地域清掃を利用者と共に行っている。他に地域の夜間防犯パトロールにも職員で参加させていたっている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議で、認知症についてのテーマで研修を行い、地域の方や、家族も参加していただき、理解を深めるよう働きかけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価や、情報開示に関しての報告と、今後の取り組みについて、運営推進会議で話し合っている。そこでの意見をホーム便りに掲載し、家族の共通理解を得るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	担当地域の包括支援センターの職員とは、運営推進会議にて情報交換している。生活保護の担当者や介護保険課、高齢者福祉課には、役所に出向いてサービス上の相談や、協力を得るようにしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止マニュアルを作成。月に一度の定例ミーティングにおいて、定期的に身体拘束をしない為の研修を実施している。外出希望の強い方の行動パターンを把握し、1・2階の職員間で情報を共有し、日常においても身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時の身体チェックの徹底。ミーティングや内外研修において、職員の認識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者や職員は、成年後見制度の研修を受け学びを深めている。権利擁護についての研修もミーティングで行っている。現在の利用者で後見制度の該当者はいないが、今後必要となる可能性に備え、話し合うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約を行う際は、契約書の説明をし、疑問がないかを確認している。また内容について、できるだけわかりやすく、具体例を提示して理解・納得を得られるよう努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議を活用し、家族や利用者の意見を反映できるようにしている。意見箱や相談苦情ノートを設けているが、何でも話せる雰囲気作りをし、管理者や職員に直接意見要望を話される方も多く、個々のニーズに応えられる様に心がけている。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月に一度の管理者会議やミーティングにより、代表者や管理者は、職員の意見を聴く機会をもち、会議で決まったことを運営に反映させている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>代表者は、管理や者から連絡相談を受け、職員の勤務状況や、実績などを把握している。配置転換や各個人に見合った、職場への移動等を適宜行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修案内が随時、管理者経由で発信され、職員、管理者はそれぞれのレベルに合わせ、必要な研修参加をしている。また新人職員対象の研修は、日々の業務の中でベテラン職員により行われている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者会議により、管理者同士の交流や情報交換が行え、またお祭りや運動会など、他事業所との合同行事を開催することにより、相互のサービスの質向上や職員同士のスキルアップの刺激となっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人自ら、不安・悩み・苦しみ・喜び・困りごとを訴えることができる場合は、ゆっくり話を傾聴している。又、自ら訴えられない方に対しては、こちらが見極め、安心していただける関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望・不安なことは、随時相談していただけるような機会をもち、職員間で情報共有に努め、同じように対応できるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の困りごとや、身体状況等の情報を伺い、家族の負担が軽減できる様に、本人にとって一番適切と思われるサービス等を紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、日頃から顔なじみの関係を築く努力をし、利用者と同じ目線に立ち、声かけし一緒に家事等を行う事で、同等の立場であることを認識してもらい、感謝の気持ちを忘れずに伝える。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活の中での喜びや、不安を分かち合い、同じ立場で本人が楽しく穏やかに過ごせるように、家族と協力して支援していく。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者にとってのなじみのある方との面会や通など、いつでも受け入れており、関係性の継続支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を把握し、相性の関係等を考慮し、トラブルにならないように支援している。又、入居者同士がお互いを認め、それぞれができない事を支え合うような、関係作りの支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されても、いつでも相談や支援できる様になっている。今でも退去された方のご家族が立ち寄ってくださっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりにおいて、表情・行動からの「気づき」を大切にし、利用者がどのような生活をされたいのか把握できるよう努めている。意思疎通の困難な方は、家族からも情報を頂くようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人・家族にお願いし、これまでの生活歴が把握できる様、聞き取り等において情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方・心身状況・変化・気づきを日誌等に記録し、できたこと、嬉しかったことを含め、常に職員間で同じ情報を共有できる様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で、利用者の思いや必要としていることを汲み取る努力をしている。本人や家族の意思を確認し、担当職員を中心にアセスメントを行い、利用者が一番良いケアができる様プランを作成している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、ケアの実践・結果・気づきや工夫を介護記録に記入している。入居時や、状態変化の激しいとき等必要に応じ、24時間シートを使用し、職員間で情報を共有している。利用者の水分・排泄の記録を行い、個別にファイリングしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨時の病院受診の際の送迎支援を行っている。又利用者の個別の外出にも職員が付き添っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員と意見交換する機会を設けている。校区の運動会、町内の夏祭り等に参加し、地域の方と接し協働支援している。また、ボランティアも積極的に受け入れ、本人の力を引き出す手助けの一部を担ってもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に必ず、かかりつけ医の有無を確認し、本人・家族の意向をお聞きしている。通院や往診等希望される医療機関を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で得た気づきを訪問看護ステーションに情報や気づきを伝え、相談し助言をもらい、必要があれば受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が入院先に出向いて状態などを伺い、情報交換し、ホーム側の意向を取り入れて、できるだけ早く退院できる様に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けてターミナルケアはこれまで経験はないが、終末期を見据えた利用者については家族と面談を行い、今後についても方針を話し合うようにしている。職員の心情も聞き取り、話し合いの場も設けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命ファイルを作成し、年2回消防署員により、心肺蘇生法・応急手当・初期対応の指導を受け、また研修やミーティング等において実践を身につくように訓練している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の実施、職員間の連絡網の周知、ミーティング、研修においてマニュアルの確認を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対しては尊敬の念を表し、傷つけてしまうことのないように、言葉遣いには細かい注意を払っている。個人情報等は目につかないところに保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の態度や表情の変化に気をつけ、何をしたいのか、何をしてもらいたいのか、声かけにて聞き出し、最終的に本人に自己決定してもらうようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の性格や生活リズムを理解し、職員側の都合を無理強いしないよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	起床時に整容し、本人に服を選んで着替えてもらっている。家族の協力の下、行きつけの美容室に行ってもらったり、必要に応じてホームまで美容師に来てもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下準備を一緒に行ったり、メニューを通して話をしたりしている。職員も同じテーブルを囲み、同じ食事を摂りながら、食事中も箸の進まない方、食べ方のわからない方に声かけし、楽しい雰囲気の中で食事して頂いている。下膳や皿洗い、トレイ拭き等も手伝ってもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立により、バランスのとれた料理を提供している。食事と水分摂取量を記録し、全職員が把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い、見守りや介助を行っている。就寝前には義歯洗浄消毒している。定期的には歯科受診を行い、管理ファイルを作成し、全職員が周知するようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンをチェックし、定時でのトイレ誘導を行い、なるべく失禁のないようにしている。日中は布パンツを使用し、失禁時は下清拭・更衣を行っているが、自尊心を傷つけないように、細心の注意を払っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつ時にヨーグルトを提供している。日中の水分補給の充実や、散歩廊下歩行・レクリエーション・家事参加・腹部マッサージを心がけている。又、主治医処方 of 緩下剤を使用されている方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週2回の入浴を基に、その人の体調、希望を踏まえながら、なるべくその人に合ったタイミングで入浴していただけるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に短めの昼寝を促したり、夕食後ホールでくつろがれている時に、飲み物を勧めリラックスして頂いている。声かけにて入床を促し、精神的にも安心していただけるよう、寄り添い、声かけするよう心がけている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診ファイルで管理し、職員が薬の目的や副作用・用法・用量等について正しく理解している。服薬時は、手の平に渡し、きちんと飲み込むまで確認している。一人ひとりを良く観察し、変更のあった際はもちろん、変化のあるときはすぐに対応できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれが得意とすることで力を発揮してもらえよう、一人ひとりに合った役割を設けている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	高齢であったり、身体的に自由が利かなくなってきたり、個別の外出も困難になってきている。家族の協力のもと、できる限り希望に添えるような支援を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族から、預かり金をお預かりし、金銭管理をしている。何か欲しい物がある際は、いつでも使えるように支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者の希望に応じて、電話や手紙が出せるように支援している。又遠方の身内から贈り物が届いたら、お礼の電話をかけるなどの支援をしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>光はカーテンや照明で配慮し、室温は空調等で調節している。利用者にとって不快となる音を職員がたてない努力をしている。入居者全員で、季節ごとに季節感のある貼り絵や切り絵等を作って飾っている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールにはソファが2つ配置しており、利用者同士仲良く座り、談笑したり歌ったりされくつろがれている。中にはソファーに座り、瞑想されている方もいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より馴染みの使い慣れた家具・生活用品・装飾品・仏壇等を持ち込まれ、安心して過ごせる環境づくりをしている。壁面には写真やカレンダーが飾られている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、至る所に手すりがついている。各居室の入口には表札がある。トイレには入口ドアに「お便所」、浴室前には「湯」の暖簾が下がっている。ホールの自分の席には、テーブルに名前シールを貼付している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない